

# 職業能力と職業資格制度の構造

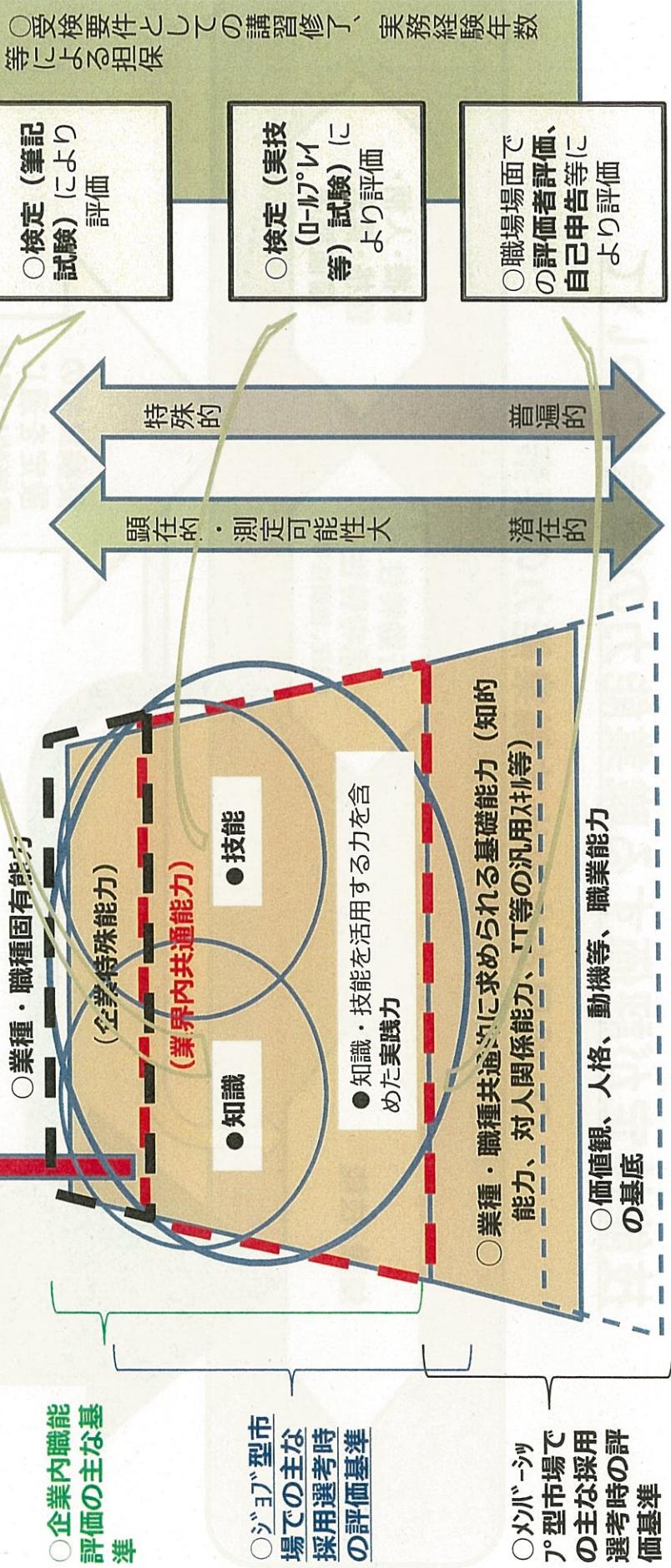


## 「職業能力」の構造（仮説）

- 「職業能力」について(は、◇何らかの方法で測定可能で、◇生産現場で価値を生み、ひいては募集採用、人事評価等の場面での評価のイデ<sup>イデ</sup>ック入となる能力、労働者の保有する能力、といった捉え方が可能。
- これに、◇業種・職種特殊性一貫通性、◇企業特殊性一貫通性、◇潜在性一貫在性、◇成長に伴う開発可能性、◇適合する評価方法等の主要な「軸」を当てはめると、概ね以下のようないくつかの構造整理が可能と考えられるもの。

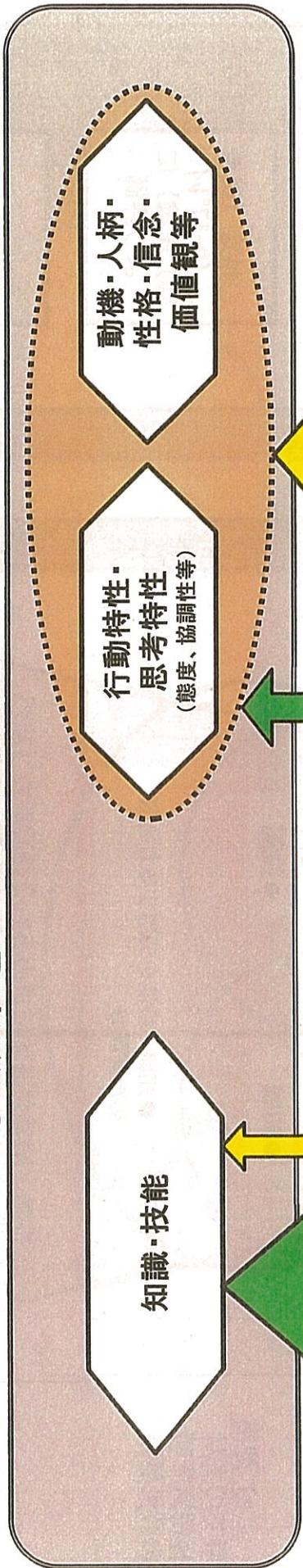
○主にこの部分《業種・職種固有能力で、業界内では概ね共通するもの》に着目し、能力の性格・レベルに応じた評価の枠組み・手法を整備することが考えられるもの

○想定される典型的な評価方法



# 技能検定が評価する職業能力の構造について

## ○ 成果を生み出す職業能力の要素



○ 技能検定合格に必要な要素 +

○ 技能検定試験 + 実技試験  
学科試験

- 受検資格
  - ・所定の準則訓練を修了した者
  - ・一定の実務経験を有する者
  - ・上記者に準ずる者

### 実技試験

- ・作業試験
- ・実際(模擬仕事)に作業を行わせる試験。
- ・要素試験
- ・判別、判断、測定等を行わせる試験。
- ・ペーパーテスト
- ・計算、計画立案、予測等を行わせる試験。

### 受検資格の考え方

- ・技能者の(狭義の知識・技能以外の要素を含む)職業能力の水準は、その労働者の受けた職業訓練又は実務経験・能力のポリュームに概ね対応するといは判断の誤りから、合格する自己の技能に対する過信あるいは自己の技能がほとんど無いにもかかわらず受検して不合格になるような非効率な事態も避けられること。

## 職業資格制度の構造・特徴分析

